

テ證明サレ得タル局部ノ頭蓋骨増殖ヲ伴ヘリ。此ノ機轉ハ腫瘍細胞ニ依リテ骨管ノ侵略サルルニ基クモノニシテ之ニ因リテ造骨細胞ノ刺戟サルルアリ爲メニ骨新生ヲ來スガ故ナリト。(佐藤抄)

ベエートウベンノ聾ニ就テ

パリ通信

The Journal of the Americ. Medical Associat., Sept. 23, 1922.

先般パリニテ開催セラレタル第十回國際耳科學會ニ於テ、ストラスブルヒノカアニユイト氏ハ、樂聖ベエートウベンノ聾ニ關スル興味アル意見ヲ發表セリ。人モ知ル如クベエートウベンハ既ニ其二十六歳ノ折ニ難聴ヲ得、漸次進行シテ三十八歳ニ至リテ全ク聾スルニ至リシモノニシテ、此疾患ノ性質ニ關シカ氏ノ意見ハ、此樂聖自身ノ記述、病症ノ經過、友人ノ觀察及解剖上所見ヨリ推シテ、恐ラク耳硬化症タリシナラントナシ、尙ホカ氏ハ果シテ此聾其物ガ、作曲者トシテベエートウベン氏ニ如何ニ影響セルヤニ論及シ、彼ノ驚嘆ス可キ大作ノ多クハ此病變進行中ニ作製セラレ、加之ナラズ幾多ノ偉編ハ全聾

中ニ作譜サレタルモノニシテ、是ヲ以テシテモベエートウベン氏ハ吾人人界ヲ超越セル一靈域中ニ生存セシモノナリト論ゼリ。(T生抄)

訂正。前月號抄録中「生殖器出血ニ對スルX線脾放射」ハ私ガ題ヲ選ンテ柴氏ニ其抄録ヲ托シタノテスガ、其文中X線放射量二分一「ヘッド」又ハ三分一「ヘッド」トセルハ二分一HED或ハ三分一HEDト記ス可キガ正當デ、其理由ハ此HEDハ Haut Erythema Dosisノ略字デアアルカラトノコトデ、即皮膚ニ第一度ノ火傷ヲ起ス分量ノ二分一又ハ三分一ニ量ト云フ意味ダソウデス。謹ンテ私ノ疎漏ヲ謝シ、且之ヲ注意サレタルTK生氏ニ御禮ヲ申シマス。

編輯 田中文男